



# イフジ産業の鶏卵相場予想

## 2022年 8月 の鶏卵相場予想

**210円**

(全農東京相場LM加重平均)

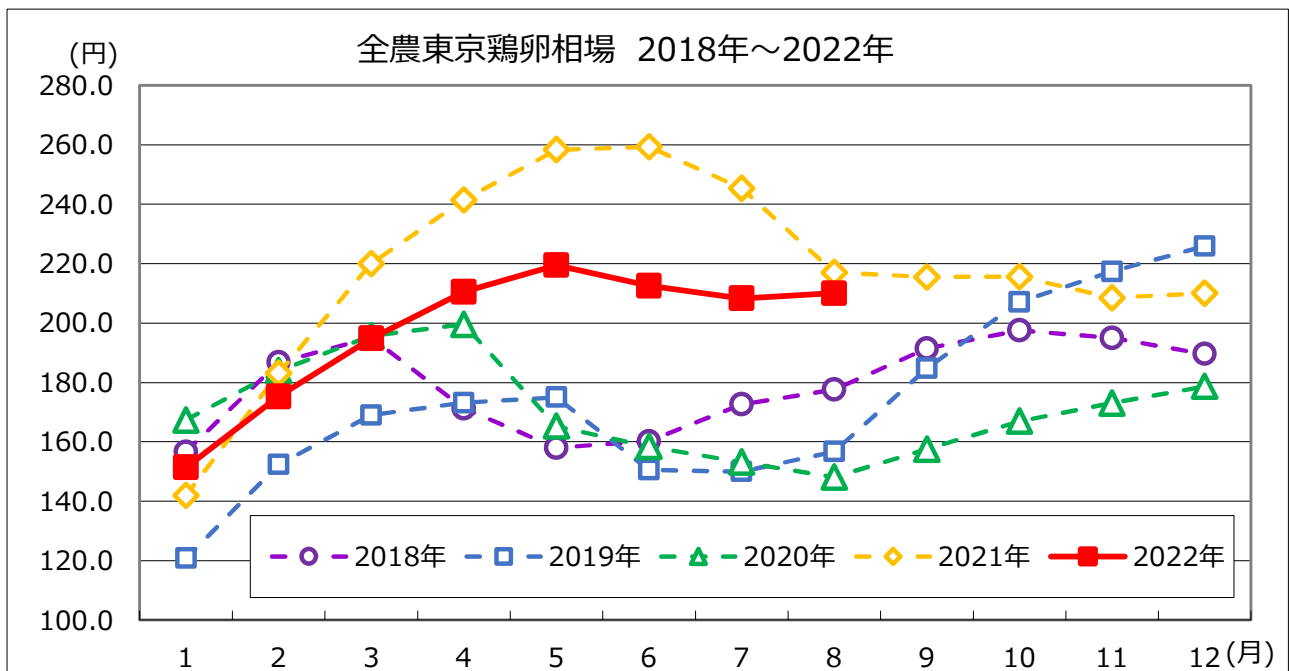
7月の相場ですが、前月の相場を引き継ぎ、Lサイズ・Mサイズともに210円からスタートしました。その後、7月11日、7月25日にMサイズが各日5円ずつ下落しました。(2022年7月25日時点のL M加重平均は205円)

供給面では、梅雨明けから気温が上昇し、卵重の低下から小玉中心の生産となっています。余剰が出やすい季節ですが、世界情勢の悪化による配合飼料などのコスト負担が大きく、生産意欲減退が感じられるため例年と比べると荷余り感は少ないように感じます。需要面では、加工品(ボイルなど)の一定の引き合いはあるものの、気温上昇によって、テーブルエッグを含め全体的に需要は減退しているように見受けられます。相場は小玉以下が若干下押しの展開となっています。7月の月間L M加重平均は208.28円(2022年7月25日までの平均値)

さて、8月の相場予想ですが、供給面では本格的な暑さが続いていくものと考えられるため、変わらず小玉中心の生産で推移するものと思います。そのため、大玉減少に伴う相場上昇は多少なりとも発生すると推察します。また、猛暑による熱死が発生し羽数減少の懸念もあります。7月以降、飼料価格が更に上昇(全畜平均1万1,400円/トﾝ上昇)し、生産者サイドは厳しい環境が続いており、需要減退によって生産抑制の観点も更に強まる可能性があります。一方需要面ですが、高気温が続くため、変わらず需要減退で推移すると思います。また、様々な原料が値上がりするなか、各メーカーにおける製品も値上げの動きが続いています。今年は季節的要因に加えて、物価上昇による需要の変化があるため、消費動向次第によって左右されるものと考えられます。

先に述べた通り、需要減退はあるものの、生産抑制とサイズ間調整によって、若干ですが大玉の相場上昇が考えられるため、8月の月間L M加重平均は210円付近と予想いたします。

今後の生産次第では特に秋口以降(繁忙期)の供給面が懸念されます。実際に例年の夏場に比べると相場高で推移していますが、生産者側のコストアップは埋められません。今後も原料逼迫や鶏卵相場の更なる高騰も考えられるため、不透明な状況が続きます。



※2022年7月の相場は7月25日までの平均値。8月は予想値。  
 ※予想は当社独自のものであり、あくまで予想です。  
 ※この情報に関するお問い合わせ等はご遠慮ください。

Egg ×  
Something =

「タマゴテック」でライフスタイルの殻を破る

